

リポーターだより No. 2

『ずっとまどろっこしくても親子です』

一冊の本との出会い



リポーター
ひさこ 小田 壽子 さん
(山神台)



心の教室相談員として二中の生徒と接しています。

「産んだ子にひるむな、お母さん!!」

この最初の力強い響きに強く引かれ、あとはもう夢中で読みました。短歌のリズムでつづられた文章一句一句、短い中に込められた筆者の思いが、素直に私の心の奥に入り深く感動し、たくさんの「気づき」をいただきました。私は、中学校の「心の教室相談員」として日々、子どもたちと接しております。その中で、母親の役割の重要さなど、子どもたちから多くのことを教わり、たくさんの感動をもらうとともに、親として本当に未熟であったと改めて反省する日々です。相談員としての体験がなければ、母としての「気づき」もないままに、これからも我が子たちに接していくことになっていったと思います。そしてこの一冊の本にもっと早く出会っていたならと残念に思う一方で、今からでも遅くはないと自分を励ましています。子育てのヒントにしたいだけではないかと思ひ、辻歌子著『どこまでいっても親子です』を紹介させていただきます。



休み時間にはどこからともなく生徒たちが集まります。

言葉をたくさん持つてないだけ子どもは何でも感じています。そして色々と思っています。ちょっと見ただけではわかりません。そして子供はあまり表現を致しませんから、つい子供なんて何も分からないとバカにしてしまうのではありませんか。子供達は、先生のごきげんの悪い朝もよく感じています。両親の言い争いにも心を傷めています。子供は素知らぬ顔をして、両親の仲を見破ってしまうのです。子供に悩みがないなんて思うのは大きな間違い。

人よりも

目立たせたいから苦勞する

親は普通を嫌う人種だ

先づ認めよ

「あなたの気持ちはよくわかる」

ここから相手の心は開く

おやぎょう 親業に

認定証がないからこそ

大きな顔して親にもなれた

くどくどと

説教すればするほどに

遠くへ逃げる子どものハート

逆らうは

ノーマルにして沈黙は

腫物肥大するばかりなり

苦しみも

悲しいことも いつまでも

続かないから生きていられる

親にかくすことが

いっぱいできてくる

昔想えば自分もおなじ

限られた紙面なのでほんの一部しか紹介できません。筆者の思いをどれほど伝えられたか不安ですが、母親の強力な応援メッセージとして一つでも皆様に伝われば幸いです。

「親子です。」

世界が続くその限り

どこまでいっても親子です。」

(朝日新聞、日本教育新聞にも紹介されています。)

郡市P連の関係者の方々のお力添えで、九月二十五日土曜日、午前九時から、桂城短大において辻歌子氏の講演会が開催されます。